

第3次アクションプラン特色ある取組状況の紹介 栃木県立鹿沼南高等学校

地元特産品「鹿沼土」の効果発見！

トマトの栽培時に手に付着する「トマトタル」を落とす洗浄剤の開発に取り組んでいる。2016年から課題研究の授業で研究を始めたところ、地域で採れる園芸用の鹿沼土が汚れを落としやすいことを発見。天然由来で肌に優しいうえ、本来廃棄される粒子を利用することで新たな活用方法を見出した。火山灰や軽石に由来する鹿沼土は、小さな穴が無数に開いたスポンジ状の土で保水性に優れ、摩擦の力でマッサージ効果がある事から保温性もあることが分かった。研究から粒子が1mm以下の鹿沼土が手のひらからトマトタルをこすり落とすことを突き止めた。この研究は、2018年にジュニア農芸化学会銀賞、栃木県学校農業クラブ連盟大会最優秀賞、高校化学グランドコンテストポスター賞、2019年高校生ビジネスプラン・グランプリ準グランプリ、高校生ボランティア・アワードChay賞、全国高校生農業アクション大賞の受賞。



サツキツツジの魅力を世界に発信！

鹿沼市の特産であるサツキツツジを題材に、本校生産のサツキツツジをEU諸国への輸出に向けて、栽培技術の研究に取り組んでいる。毎年春に農水省横浜植物防疫所による検疫を受け、11月頃にサツキを鹿沼市の花木センターを通じ、ドイツなどに輸出している。

この活動を通じて、地域の特産であるサツキツツジを理解するとともに、地域との交流によるコミュニケーション能力の向上につながる。また、輸出を通じて国際理解などのグローバルの視点で物事を考える力が育まれている。

今後の取組として、サツキツツジを通じた国際交流に努めるとともに、理化学研究所や帝京大学と連携し、サツキツツジの品種改良などにも積極的に活動したいと考えている。



